来電・伝信（ロジ）

[redacted]

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調査班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] [redacted] 10－050

経番号 [redacted] 主管

[redacted]月 16日 フィリピン 発 亜東２

61年 05月 16日 [redacted] 本省 着

外務大臣殿 角谷大使

担当	農林省	大蔵省	通産省
	部	部	部
事務官	日	日	日

アキノ大統領の訪日招待

第１１１４号 暗秘 至急 [redacted]

本件につきひ見以下の通り申し進めるにつき前向きに御検討の上結果御回電願いたい。

1．アキノ政権成立後３ヶ月近くを経たが、同政権は主として政権の基ばん固め、各種改革の推進に努力を傾注してきており、これまでのところ外交面では多数の外国要人を迎えたものの比要人の諸外国訪問はそれ程活発ではなかつた。しかし、先般のオンピン蔵相の米、日訪問、ラウレル副大統領兼外相のＡＳＥＡＮ外相会議（おけるパリ）出席ならびに６月上旬の訪日等今後外交面での活動も強化していくものとみられている。

2．（1）日本にとつて比は戦略的に重要な位置を占めるりん国であり（二大米軍基地も存在）、ＡＳＥＡＮの一国としても重要であることは論をまたない（特に現在比はＡＳＥＡＮ議長国）。

（2）他方、比にとつて日本は単にりん国であるのみならず、特に経済・経済協力の面で米と共に又は重要な国である。特に、２月に新政権が成立し政情安定、経済再建を図りつつある中で、日米をはじめとする友好国の協力は不可欠である。

外務省

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

秘

電信写

（3）新政権は先般のオンピン蔵相訪日等により改善の方向にあるとは言え、未だ必ずしも十分かつ正確な対日認識を有しているとは言い難く、わが国要人との人的関係も必ずしもこいとは言い難いと思われる（この点歴史的、文化的つながり、比新政権に米留学組が多いこと等により太いパイプが存在する比米関係とは大きく異なる）。

かかる状況下、アキノ大統領自身が訪日し総理、貴大臣をはじめわが国要路の方々と直接面会して個人的親交を深め日本への理解を深める機会を持つことが、今後日比友好関係を一層増進していく上で極めて重要と思料される。

（4）なお、米、西独等は既に「ア」大統領招待の意向を伝えている模様であり、またアキノ側近、比政府内部においてもある段階でまずＡＳＥＡＮ、次いで日、米を訪問するとの案も検討されているとの情報もある。

3．以上にかんがみ、具体的訪日時期は今後日比双方で検討するとしても、まずわが方より出来るだけ早い時点で「ア」大統領招待の意向を先方に伝えることが望ましいと思料される。

なお、招待の意向を伝達するタイミング、チャネルとしては種々考えうると存ずるも、例えばＡＳＥＡＮ拡大外相会議への貴大臣訪問時（６月下旬）、ラウレル副大統領訪日時（６月上旬）、本使が直接伝える等が考えられると思われる。

4．なお、以上に関連し１６日ラウレル副大統領は本使に以下の通り述べた。

自分（ラ）は昨日マラカニアンにアキノ大統領を訪ね、自分の訪日の許可をとりつけたが、大統領は自分（ア）も一しよに行きたい様な口振りであつたので、正副大統領

外務省

1617725 048 5479 04

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主旨変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

が一しよに国を離れる訳には行かず、日本側の都合が良ければ１０月ころフィリピン国の元首として日本を訪問（ＳＴＡＴＥ　ＶＩＳＩＴ）されては如何、日本大使と良く相談される必要があろう旨述べておいた。（本使より大統領は訪日にＷＩＬＬＩＮＧであるのかと質問したところ）その通りである。

（なお、ラウレルが１０月ころと言つたのは9月にはラウレルが国連総会、その後韓国を訪問するが、１０月には帰国していること、現在の政治日程が順調に行けば9月始めに新憲法草案が大統領に提出され、これが国民投票に付されて１０月ころまでには新憲法が成立をみていることを念頭においているのではないかと推測される。）（了）

161725 048 5479 04

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

[redacted] [redacted] 10－026

総番号 [redacted] 主管

月 22日 [redacted] フィリピン 発 亜東２

61年 07月 22日 [redacted] 本省

外務大臣殿 角谷大使

着	官房	大臣官房	領事移住部
担当			
	総務	総務	総務
	審議官	審議官	審議官
事務	課長	課長	課長
官	補佐	補佐	補佐

アキノ大統領の訪日問題

第１６３９号 至急（ゆう先処理） [redacted]

２２日ゆう、マラカニアンきゆう殿より発表されたプレス・リリースによれば、アキノ大統領は同日、比観こう省による観こうゆう客の一かんとして訪比している１００名の日本人女性に対するあいさつの中で、「本年末ないしは明１９８７年初頭までには日本を訪日することを希望している」旨述べた。御参考まで。

（同プレス・リリース別途商用ファックスにて送付する。）（了）

2308824 048 8473 07

課長　86年 7月22日 午後 7時34分　EMBASSY OF JAPAN PHILIPPINES ; # 1

昭和61年 7月22日

経協調 課御中

本FAX信を 陳二 課に転達方お願いします。

在フィリピン大使館

アセ2 課宛　在フィリピン大使館
第 71 号
件名 アキノ大統領の訪日問題
22日発出された本件に関するマラカニアン宮殿プレス・リリースを次の通り送付します。

MALACAÑANG PRESS CENTER
PRESS RELEASE NO. 1
July 22, 1986

PRESIDENT AQUINO TO VISIT JAPAN END OF THE YEAR

President Corazon C. Aquino today (July 22) expressed the hope to visit Japan by the end of the year or by early 1987.

She expressed this sentiment before a group of some 100 young Japanese ladies who are in the country as part of a campaign by the Ministry of Tourism to promote wholesome tours for the Philippines' neighboring countries.

The project is supported by Philippine and Japanese companies notably the Philippine Air Lines (PAL) and Japan Air Lines (JAL).

The ladies, who are in their early 20s, were selected from various fields like sports, travel and music. Some are English interpreters and participants to the Miss Japan contest.

They said their trip was the counterpart of Kris Aquino's recent visit to Japan to promote the Philippines.

"In spite of our problems, we in the Philippines also have some very attractive places for you to see but more important is the fact that we have a wonderful people who will welcome and open their hearts to you," President Aquino said in welcoming the delegation.

Mrs. Aquino expressed the hope that these ladies would be able to tell their countrymen how the Philippines is functioning under a women president.

"I hope you will be able to tell your countrymen what the Philippines is like under a women president," she said.

She also cited the need to promote the tourism industry in the country as a way to solve the country's economic problems.

"It is time that we join hands so that we can make a better world for all of us," she added.

When asked what she would do if she were to be 20 years old again, Mrs. Aquino replied: "perhaps what I would like most is if I could have the energy of a 20-year old because of my present job."

"But being 53 is not too bad either," she added.

On her dual role as a mother and women president, Mrs. Aquino quipped: "Being a female president had its difficulties in the beginning because

many of our men did not know how to react to a woman president. However, I think I've made it clear to them that I'm the boss. So that's all there is to it."

Tourism Minister Jose Antonio Gonzales and Tourism Director for East Asia Bobby Tiozon accompanied the ladies to Malacañang.

The delegation will leave tomorrow after their five-day tour of the country's popular tourist spots.

-oOo-

r.festin/rpb.

[redacted]

追記有

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] 10－050

総番号 [redacted] 主管

月 12日 [redacted] フィリピン 発 亜東２

61年 08月 12日 [redacted] 本省 着

外務大臣殿 角谷大使

担当 大臣官房 総務課 省内 部局 部 課 月 日 事務官 日 日 日

アキノ大統領の訪日

第１７５７号 暗秘 至急（ゆう先処理） [redacted]

貴電第１２６１号に関し、

１１日夕、本使マラカニアンにアキノ大統領を往訪（先方ベレスレヴュー書典長同席）、冒頭貴電の次第を申し入れたところ、同大統領は日本側の御申し出をよろこんで御受けしたいと述べた。念の為本使より１１月１０日より１３日までの４日間にて御都合よろしきやと重ねて照会したところ、同大統領は始めは新憲法の国民投票との関係もあり若干危ぐしていたが、過日一時帰国したテルロザリオ大使の話でも国賓として訪日を希望する者が目白押しである由でもあり、この際日本側の御申し出を有難く御受けする、よろしく御伝え願いたいと述べた。（了）

外務省

1211156 048 9354 07

追既消

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は総関班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] 10－046

総番号 [redacted] 主管

[redacted] 月 12日 フイリピン 発 亜東2
61年 08月 12日 [redacted] 本省 着

外務大臣殿 角谷大使

担当 大臣官房 審議官 総務課 調査課 地域課 経済課 条約課 領事移住部 参事官 日日日日

アキノ大統領の訪日

第１７５８号 暗秘 至急（ゆう先処理） [redacted]

往電第１７５７号に関し、

大統領との会談後ベレスレヴューぎ典長と以下の打合せを行つた。

1. 本使より、日本側としては国賓の招待の正式決定は約1ケ月前の閣議決定を以つて行なわれ、その際正式発表が行なわれることになつているので、それまでは本件につき外部にもれることが絶対無い様願いたく、その旨は大統領にも念を押してもらいたいと述べた。

これに対し「ベ」ぎ典長は、日本側の御事情は分るし、その通りに努めるけれども、事実上当国においてはかかる秘密を長く保つことは極めて困難である。秘密を保つという意味からも発表をもう少し早めていただけないだろうかと述べた。

2. 先方より、今回の御申し出は文書でいただけるものであろうか、比側としては日本側の慣例に従うが、若干の国（独、仏）よりは文書による招待が来ていると述べた。よつて当方より、閣議との関係からか日本側の慣例は口頭によるものと理解しているが、念の為本国政府に照会してみる旨述べた（この点、何分のぎ御回示願いたい）。（了）

外務省

1211159 048 9355 07

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１、２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] 1-0-045

総番号 [redacted] 主管

月 20日 [redacted] フイリピン 発 亜東2
61年 08月 20日 本省 着

外務大臣殿 角谷大使

アキノ大統領の訪日

第1808号 暗秘 至急 [redacted]

往電第1758号に関し、

1. 20日午前、イスルギ議員がアキノ大統領を表けい訪問した際（国安同行）、同議員より、「ア」大統領の訪日を日本国民は心からかん迎している旨述べたのに対し、「ア」大統領より、「自分の訪日については、日本政府の御招待を有難くお受けしているが、今その事実を公表すると、アジア、米国、ついで日本と、自分があまり外国に出過ぎるとの批判がなされる恐れがあるので、しばらくふせておいた方がよいとのちゆう告を受けているので、自分が米国から帰国するまで、右事実をふせて欲しい」旨述べるところがあつた。

2. 右表けい訪問後、国安が大統領府ルビオ次典長と更に本件につき、つめを行なつたが、その際同次典長の述べた点次の通り。御参考まで。

「先日スミヤ大使に、比国においては、大統領の訪日の如き重大なことを長いこと秘密にしておくことは、極めて困難であるとして、可成り早い段階で、ある程度公表することの可能性を示さしたが（冒頭往電御参照）、その後の経緯は本日「ア」大統領がイスルギ議員に述べた通りである。ただ、米国から大統領が帰国する9月末までふ

外務省

2100868 048 9776 04

[redacted]

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

せておけるかどうか自信がないので、アジアから帰国した段階で、何時公表するか貴官と協議したい。いずれにせよ、マニラと東京で同時に公表する形をとりたい。」（了）

外 務 省

[redacted]

2108858 0048 9776 04

[redacted]

速配乙

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

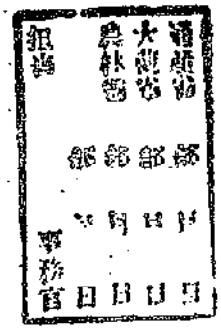
電信写 [redacted] [redacted] 10－045

総番号 [redacted] 主管

[redacted] 月 27日 フイリピン 発 亜東２

61年 08月 27日 本省 着

外務大臣殿 角谷大使



アキノ大統領の訪日（招待状の発出）

第１８５０号 暗秘 至急（ゆう先処理） [redacted]

貴電ア東二第１３４１号に関し、

２５日本使よりラウレル外務大臣に冒頭貴電別電の書簡を発出しおいた。

なお２６日他用にて面会の際同大臣に本件はすでにアキノ大統領に申入れ受たくされていること、従つて本書簡はフオーマリテイであるが本件は極秘に扱つてもらいたいこと等念をおしておいた。（了）

外務省

27193104800990005

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

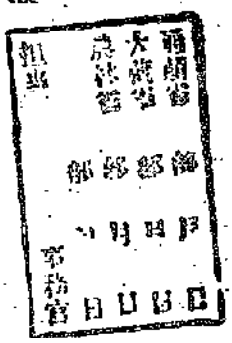
電信写 [redacted] 10－045

総番号 [redacted] 主管

[redacted] 月 11日 フイリピン 発 亜東 2

61年 09月 11日 本省 着

外務大臣殿 国安 臨時代理大使



アキノ大統領の訪日

第１９６１号 至急（ゆう先処理） [redacted]

往電第１８８５号に関し、

１１日、アキノ大統領が訪米に先立ち記者会見を行なつたところ、ぼうちようした当館クラークによれば、「ア」大統領は訪米後他国を訪問する予定如何と質問されたのに対し、１１月に日本を訪問する予定である旨答えた由。

米に転電した。（了）

1118330480925007

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１、２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] [redacted] 10－045

総番号 [redacted] 主管

[redacted]月11日 フイリピン 発 亜東2

61年09月11日 [redacted] 本省着

外務大臣殿 国安 臨時代理大使

アキノ大統領の訪日（意見具申）

第1959号 暗秘 至急（ゆう先処理） [redacted]

貴電第1366号に関し、

本年11月に予定されているアキノ大統領の訪日に関し、「ア」大統領は当初米国に先立つて訪日したいとの希望を有していたにもかかわらず、諸般の事情から11月となつた経緯からもうかがわれる通り、「ア」大統領を初めとする比側の期待も大きく、また、わが国においても、いわゆる「アキノ・フィーバー」の一層の盛り上りも予想されるところから、この際わが国としても今回の訪日を最大限活用し、日比間の友好関係増進に役立てることがかん要であると思料され、また、わが国の対比協力の強化を内外に新ためて打ち出す絶好の機会でもあるところ、本省におかれても種々御検討中のこととは存ずるも、経協及び経済問題を中心としたり見以下の通り申し進めるので、御検討の上結果御回電願いたい。

I. 経協関係

1. 対比経済協力を推進する上で以下の通りの基本的考え方を明確に伝える。

（1）安倍前外相訪比時の御発言、ラウレル副大統領訪日時の要請等をふまえ、わが国は対比経済協力を今後更に拡じゆうする用意がある（円借の目途としては、先方よ

外務省

1113349 048 0518 00

注意　1．本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2．本電の内容に関する照会，要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3．主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

り再三要求越して来ているタイ、インドネシアなみのレベルまで引上げる）。

（2）比政府の最ゆう先課題の１つである農村雇用計画を積極的に支援する為、円借かんによる内貨融資を拡じゆうすべく（訪日時には既に比国側に通報済であろうと予想される、商品借かんの活用に加え）、先般インドネシアに導入した措置と同様のものを比に対しても認める。更に、ツーステップローンの拡じゆう、機材供与案件の拡じゆう等引続き足の早い援助を重点的に実施する。

（3）本年１０月に策定予定の新経済計画を支援する為出来る限り早期（可能ならば本年中）にハイ・レベルの政府ミッション（例えば大来ミッション）を派遣する用意がある。

2．具体的案件

（1）カラカ発電所第2号基（推定約３億ドル）に対する特別円借かんの供与。バターン原子力発電所のか動とう結に伴い、比政府にとり新たな電力源の確保はしようびの急であるところ、最ゆう先される本発電所に特別円借かんを供与することは極めて時ぎを得たものと思料する。（因みに、本発電所は３００MWでバターン原子力発電所の予定電力量の半分を供給。現在比電力公社によりＦ／Ｓ調査が実施されており、右調査を受けて１０月ごろわが方ミッションを派遣することを検討願いたい。）

（2）輸銀融資の部分的再開

比新政権たん生後、オンピン蔵相より（イ）国営製鉄会社（ＮＡＳＣＯ）のＲＯＬＬＩＮＧ　ＭＩＬＬのリハビリ及び（ロ）比港湾局のコンテナ設備につき正式に輸銀融資の要請を受けているところ、右２案件共に比が開発計画を推進する上で必要不可欠

1113459 048 09918 05

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

なものと考えられるので、「ア」大統領訪日のモメンタムをとらえ輸銀融資を再開することは比側より多大な評価を得るものと思料する。

（3）首都マニラこう水対策

先般の台ふうＭＩＤＩＮＧのひ害の通り、比国各地方はもとより首都マニラにおいても毎年こう水のひ害にあい市民生活に多大な支障をもたらし、経済に多大の影響を及ぼしている。ついては、（イ）１９５０年代に実施されたマニラこう水対策計画をぱつ本的に見直す為に８６年度案件として開発調査（本年度事前、明年度本格調査）を本年度の年次協議で合意された案件に加え実施すると共に、（ロ）局所的に発生するこう水に対処する為とりあえずポンプ車、水中ポンプ・セット等を緊急に無償資金協力により供与願いたい。（上記（ロ）の詳細については往信第９３１号参照）

（4）輸出振こうプロジェクトへの支援

わが国は比産品の輸出促進を支援する為貿易研修センター設立計画等に協力し高く評価されているところ、昨年より本年にかけて協力終了または協力中のマンゴー及びパパイヤのじょう熱さつきん法について技術協力終了後その成果をより高める為に比農業省に対し右じょう熱さつきん法に必要な機材（必要額については調査の上追電）を８７年度案件として無償資金協力により供与する。

（5）技術研修生に対する特別わくの供与

比政府は、農業分野での開発推進をゆう先政策の１つとしているところ、農りん水産業分野の中けん指導者（農業ふ及員等）を対比技術研修生の特別わくとして約５０名程度をＪＩＣＡベースにて招へいする。（わが国各けんの農業試験場等の活用も一案

1113349 048 09918 05

注意　1．本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2．本電の内容に関する照会、要望等は検開班（内線２１７１，２１７４）に。
3．主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

秘

電信写

）　本件は、緊急な措置として８７及び８８年度の２年間に限り実施し、以降は研修成果をレヴューの上継続の要否を決定することにしては如何と思料する。

１１．経済関係

１．投資促進ミッション等の派遣

比政府は、中長期的観点から経済再建を図るには各国からの対比投資増大を実現することが最重要と考えているところ、わが国としては、出来る限り早い時期にハイ・レベルの投資促進ミッションを派遣する用意がある旨提案する。また、既に存在している民間レベルでの日比経済協力合同委員会の次回開催時期について具体的発言が得られるよう準備おき願いたい。

２．対日輸出品目の市場アクセスの改善

懸案の対日輸出品目のＧＳＰの改善等についても従来からのラインをくり返すこと無く、一歩なりとも前向きな回答を示し得るよう予め準備おき願いたい。

１１１．その他

１．日比友好しよう学基金の設立

比の高等教育が直面する大きな問題の一つとして、経済的理由により、ゆうしゆうな人材が教育を受けられない、あるいは、中途退学を余ぎなくされる点があげられ、当館に対しても財政的支援を要請する投書が数多く寄せられている。そこで、大学及び各種専門学校で経済的に困きゆうしている者を対象として本件基金（授業料、教材費等、必要経費は年間１人2，０００－3，０００ペソ。仮に７５０名を対象として約３億円の基金を設立し、その利子収入をしよう学金とする。）を創設すれば、日比間

外務省

[redacted]－０４

1113 049 0918 05

注意 1．本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2．本電の内容に関する照会、要望等は機関班（内線２１７１，２１７４）に。
3．主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

の友好親善に大きく寄与するものと思料する。本件基金については、厳しい財政事情の中で多々困難もあろうが、民間資金とのだき合せの可能性をも含め、前向きに御検討たまわりたい。

2．日比友好議員連盟の活性化

両国間には、標記連盟は形式的には存在するも、比側の議員が全て落選したり、国会が一時閉さされたりして、主として比国の要因により事実上活動を停止されているが、明年になるであろうと予想される比国会の再開後は、右連盟の演じ得る役割は大きいと思料されるので、この点につき何等かの形で触れる。（了）

1111349 048 0918 05

[redacted]

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] [redacted] 08－026

総番号 [redacted] 主管

月 24日 [redacted] フィリピン 発 儀

61年 09月 24日 [redacted] 本省 着

外務大臣殿 国安 臨時代理大使

アキノ大統領の訪日

第2030号 暗秘 至急（ゆう先処理） [redacted]

貴電き第1470号に関し、

1．マラカニアンより入手したアキノ大統領の略歴商業ファックスにて電送する。

2．なお、公式随員名ぼについては、たとえ暫定的なものとはいえアキノ大統領の確認が必要であるとしており、御承知の通り「ア」大統領は25日早朝米国より帰国するが、26日は全てのスケジュールをキャンセルし、週末にかけて休養する考えの由につき、確認結果は早くても29日にならざるを得ないので、閣議請議も早くて10月7日にならざるを得ないと思われる。（了）

外務省

PUTEOUT BNZ BOUT ET

儀典長
儀典官
儀典官
首席事務官
事務官

南東アジア第二課長

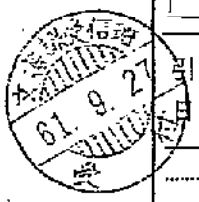
秘密標記（赤色）
平

（　　）第 1149 号
昭和 61 年 9 月 26 日

外務大臣　殿

在フィリピン
臨時代理大使

（件名）
アキノ大統領の訪日（略歴の送付）



引用公・電信
日付・番号　往電第 2030 号　（儀典）

マラカニアンより入手した アキノ大統領の略歴を ~~入手したので~~

別添送付申し上げる。

（J）

付属添付 ☑　付属空便（行）☐　付属空便（DP）☐　付属船便（貨）☐　付属船便（郵）☐

本信送付先：
本信写送付先：
省内写配布希望先：

CA-3-1　　在外公館

CORAZON COJUANGCO AQUINO
President of the Republic of the Philippines

January 25, 1933	Born to Jose Cojuangco, Sr. of Tarlac and Demetria Sumulong of Rizal, the fourth of six children.
1938-1945	St. Scholastica's College
1945-1949	Enrols at the Assumption Convent in Manila for her freshman year; leaves with her family for the United States where she pursues her first studies at Ravenhill Academy in Philadelphia and then at the Notre Dame Convent School in New York.
1949-1953	Studies for a Bachelor of Arts degree at Mount Saint Vincent College in New York. Graduates with a major in French and minor in Mathematics.
	Joins the Kappa Gamma Pi, the National Honor Society of Women in American Catholic colleges.
October 11, 1954	Marries Benigno "Ninoy" S. Aquino, Jr., a young journalist and law student, at Our Lady of Sorrows Parish Church in Pasay, Philippines.
	They have five children: Maria Elena, Aurora Corazon, Benigno III, Victoria Elisa, and Kristina Bernadette.
1972-1980	Acts as Ninoy's liaison with the opposition while he is in prison during martial law. First emerges in political life during the 1978 Interim Batasang Pambansa elections, when Ninoy ran for assemblyman from his prison cell.

May 1980-August 1983	Spends three years in Newton, Massachusetts with her reunited family following the temporary release of Ninoy to undergo a tripple coronary bypass.
August 21, 1983	Widowed
1983-1985	Becomes the key figure in many opposition rallies. In 1984, receives an honorary doctorate in humane letters from her alma mater, Mount Saint Vincent College, and another humanities from Stonehill College in Easton, Massachusetts. Receives other honorary distinctions as well from civic, religious, and professional associations.
May 1984	Opts for the opposition's participation in the parliamentary elections and supports the opposition candidates, signalling her first direct political involvement.
December 1984	Joins former Senator Lorenzo Tañada and businessman Jaime Ongpin in the Convenor group. The group devised a system for selecting the opposition candidate in case of a snap presidential election.
October 1985	Agrees to consider running for president provided: Marcos called for a snap polls and she be presented with one million signatures endorsing her candidacy.
December 3, 1985	Files her certificate of candidacy for the Presidency, with Salvador Laurel as her running mate.
December 1985- February 3, 1986	Conducts a vigorous nationwide campaign covering much more territory than her opponent could

	manage; presents her major program of government in a series of major campaign addresses.
February 4, 1986	Leads the election eve rally in Luneta Park. The largest crowd assembled in Philippine history.
February 9, 1986	With the initial poll tallies showing her in the lead, joins the people in Thanksgiving Masses at the Sto. Domingo and Baclaran churches. Claims victory on basis of early returns, calls on Marcos to concede.
February 16, 1986	Following Marcos' declaration of victory, she launches a seven-point program of civil dis-obedience calling for a consumer boycott of goods from crony owned factories and other similar forms of non-violent protests.
February 22, 1986	Four day Revolt begins People Power
February 25, 1986	Takes oath of office as the seventh President of the Republic in simple ceremonies at Club Filipino in Metro Manila.
February 26, 1986	Forms a government.

[redacted]

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検関班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] [redacted] 08－033

総番号 [redacted] 主管

月 29日 [redacted] フイリピン 発 儀

61年 09月 29日 [redacted] 本省 着

外務大臣殿 国安：臨時代理大使

アキノ大統領の訪日（閣議諮議予定）

第２０５９号 暗秘 大至急 [redacted]

貴電第１４７０号及び往電第２０３０号に関し、

１．２９日本官、先の訪米及び１１月の訪日問題等につきアキノ大統領とこん談せるところ、先方の発言中本件関連部分次の通り（先方アローヨ官房長官同席）。

（１）取りあえず随員として下記の者を予定している。

オンピン大蔵大臣、コンセプシオン工業貿易大臣、モンソッドNEDA長官、マセーダてん然資源大臣、ゴンザレス観こう大臣、ベニグノ報道担当大臣、フエルナンデス中銀総裁、ラウレル元駐日大使。

（２）対外発表は１０月７日、東京とマニラで同時に行ないたい。

２．ついては、上記１．（２）に関し、先方の希望通りで差支え無きや、念の為おり返し御回電願いたい。（了）

[redacted]

外務省

[redacted]

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は総関班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は編整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] 08－026

総番号 [redacted] 主管

月 30日 [redacted] フイリピン 発 儀

61年 09月 30日 [redacted] 本省 着

外務大臣 殿 ～国安 臨時代理大使

アキノ大統領の訪日（随員）

第2073号 暗秘 大至急 [redacted]

往電第2059号に関し、

30日、アローヨ官房長官より本官に対し、冒頭往電1.（1）に関し、ゴンザレス観こう大臣は、随員リストから取りあえずはずして欲しい旨通報越した。（了）

301F33 048 17633 01

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] [redacted] 08－033

総番号 [redacted] 主管

月 30日 [redacted] フイリピン 発 儀

61年 09月 30日 [redacted] 本省 着

外務大臣殿 国安 臨時代理大使

アキノ大統領の訪日（意見具申、その2）

第2068号 暗秘 至急（ゆう先処理） [redacted]

往電第1959号に関し、

1．（1）11月に予定されるアキノ大統領訪日は、冒頭往電にてひ見申し進めた通り、日比友好関係の増進を図り、わが国の対比協力の強化を内外に印象付ける絶好の機会になると期待される。また、比側にとつては今般の「ア」大統領訪米に続く大きな外交的行事となるところ、その成功は未だ過渡期にある比国政治・経済の安定化にとつても極めて重要である。

（2）「ア」大統領の訪米は、当国においてTV、新聞等で連日大々的に報道され大きな盛り上りを見せ、全体として成功であつたとの評価が一般的である。かかる盛り上りのはい景としては、（イ）比米間の歴史的・文化的緊密度、（ロ）自由、民主主義といつたものに対する価値感への米国民の強い共感、（ハ）「ア」大統領が英語で直接米国人に語りかけることが可能であつたこと、（ニ）多数の在米比国人の存在等、日比間とは異なるはい景が米比間には存在する訳であり、従つて「ア」訪問に際し、わが国が米と競うことはそもそも困難であり、かつその必要もないと思料されるも、上記の如き訪米後であるだけに、「ア」の訪日が余りに盛り上りを欠いたものとな

外務省

3016651 022 0422 08

注意　1．本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2．本電の内容に関する照会，要望等は検関班（内線２１７１，２１７４）に。
3．主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

発

る場合には、今後の日比関係に好ましからざる影響が生ずることも懸念される。

（3）上記の点にもかんがみ、「ア」訪日に際しては、冒頭往電にて意見具申申し上げた経済協力等の具体的成果（この点「ア」大統領自身本官に述べている通り、経済協力の成果がなんと言つても目だまであることにはいささかの変りもないことはもち論であるが）と共にその他日本なりのスタイルで同訪日を盛り上げる工夫が必要かと思われる。本省におかれては既にかかる点をも念頭に種々準備を進めておられるかと存ずるも、下記２．の諸点についても検討されては如何かと思料する。

２．（1）くん章の授与

比国人はくん章、感謝状等の授受を非常に好むので、対比広報上も有意義と思われる。

（2）主要大学におけるスピーチと名よはく士号の授与

「ア」大統領がわが国の指導層のみならず学者、学生等に語りかける機会を持つことは有意義であり、名よはく士号の授与は（ラウレル元駐日大使によれば特に東京大学）訪米時と同様にエになる場面を提供すると思われる。

（3）一般市民とのざ談会（テレビ放えい）

わが国国民は１人の主ふから一国の大統領になつた「ア」大統領の素がおに関心を持つていると思われるところ、テレビでのざ談会により政治、経済等のかたい話題のみならず大統領としての１日、はは親としての考え方等軟らかい話題も含め、ざつくばらんに語つてもらう。

（4）学校訪問

外務省

3016551 022 0422 08

「ア」大統領と日本の子供との交流も日比両国において好感を持つて迎えられると思われる。その際比国との関係では、例えば大統領に習字に参加してもらう等により日本文化の招かいを兼ねることも一案。

（５）文化協定の締結

比側は当面主として経済面での協力をわが国に強く期待しているものの、他方、経済面での交流のみでは物足らなさを感じより広く文化交流、人的交流を進めて行きたいと希望していると思われる。かかる状況下包括的な文化協定を締結し、今後の日比間の文化交流促進をうたうことは、とかく経済面のみに関心が集まると予想される「ア」大統領の訪日をより深みのあるものとする上で有意義と考えられる。

（６）共同声明（さい至共同新聞発表）の発出

「ア」大統領訪日の機会に日比友好協力関係の促進強化の意向を書面にて発表。経済協力等訪日の具体的成果を盛り込む。

（７）れいじようの活用

「ア」大統領はれいじようのクリスを同伴したいとの意向を明らかにした経緯があるところ（往電第１８８５号２．）、右が実現する場合には日比両国で知名度のある同令じようを大統領とは別のスケジュールで活用し、例えば、比国ひん民救済を目的とした大チャリティー・コンサートをわが国の有名か手と共に聞くことも一案。

（８）なお、「ア」大統領はその政権しようあくの経緯、女性であること等から話題性のある人物かと思われるが、かん迎のふん囲気を一層盛り上げる為、訪日前及び訪日中、通常のテレビ、新聞のニュース等のみならず、例えばテレビのふ人向けワイド

3016511 022 0422 08

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

・ショー、女性週刊し等を含め広くマスコミの注目を集め得るよう種々工作をすることがかん要かと思われる。（なお、当館においても比側に対し、訪日に先立ち日本のマス・メデイアから種々取材の話があつた時は、「ア」大統領が出来るだけオープンにかかる取材に応ずるよう申し入れてあり、先方も原則的に了解済み。）（了）

3016551 022 0422 08

外務省

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検関班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

秘

電信写 [redacted] [redacted] 08－026

総番号 [redacted] 主管

月 02日 [redacted] フィリピン 発 儀
61年 10月 02日 [redacted] 本省 着

外務大臣殿 国安 臨時代理大使

アキノ大統領の訪日

第2097号 略 至急（ゆう先処理） [redacted]

往電第2073号に関し、

2日、本官が他用にてジャハニ外務次官を往訪した際、同次官より「ア」大統領訪日に際しては数名の閣僚が同行することとなろうが、日本において各カウンターパートとの個別閣僚会談を行なえれば有用と考える旨の発言があつた。ついては、右会談の可能性につき御検討おき願いたい。（了）

0218250220467 05 [redacted]

外務省

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] 08-026

総番号 [redacted] 主管

月 30日 [redacted] フイリピン 発 儀

61年 09月 30日 [redacted] 本省 着

外務大臣殿 国安 臨時代理大使

アキノ大統領の訪日

第２０７７号 略 至急（ゆう先処理） [redacted]

貴電第１４９４号及び往電第２０６６号に関し、

２９日、本件訪日につき大統領府と当館との間で打合せを行なつたところ、先方の発言振り、質問事項等次の通りにつき、質問事項に関しては至急御回電願いたい。（先方アロヨ官房長官、ベニグノ・プレス担当相、ファクトラン副官房長官等、当方本官、アツミ、マキヤ出席）

1. 日比間の連絡のルート

大統領府としてはアキノ大統領も述べた通り、本件訪日準備のじん速化の為、当地での大統領府・日本大使館間の打合せを中心に所要のつめを行なつて行きたいが（比外務省に対しては大統領府より然るべく連絡する）、右にて差支え無きや日本側の御意向をうかがいたい（この点の詳細冒頭往電参照）。

2. 訪日日程等（当方より貴電第１４９５号の日程案を提示）

（1）到着時間については、へい下の御都合ということであれば、１３時東京着とすることに異存ない。

（2）へい下えつ見、きゆう中ばんさん会等主要公式行事は御提示の日程案通りで特

外務省

01.11.20 02:45 04 [redacted]

注意　1．本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2．本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3．主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

に問題ないと思われるが、その他の日程については種々のアポイントメント申し込みが予想され、全体の日程をみつつ大統領とも相談の上決定することとしたい。

（3）大統領は日本のアカデミックな人々（大学教授等）とのこん談の機会を持ちたいと考えており、この点も御配慮願いたい。

（4）各行事の式次第、服装、出席者等詳細につき出来る限り早い時点で教えていただきたい（特にへい下えつ見等公式の行事）。

（5）また、総理午さん等日本側主催のえん席において比側からも招待客を推せんし得るのであれば、この点詳細も御知らせ願いたい。

（6）大統領がスピーチをすることが予定されている行事についても、早急に承知したい。

（7）その他質問事項

（イ）迎賓館にしゆくはくし得る範囲（公式随員、警護官、非公式随員）及びその人数。

（ロ）訪日時期の最高気おん、最低気おん。

3．プレス関係

（1）大統領は明３０日のフジ・サンケイ・グループとのインタヴューをかわ切りに日本の主要プレス（読売、朝日、毎日、ＮＨＫを考慮中）との個別インタヴューに応ずる予定である。また、訪日直前に内外共同記者会見を行なうこととなろう。

（2）プレス関係の事前のアレンジメント（しゆくはく、通信施設、交通手段等）の為にプレス関係者の先遣隊が訪日する必要があると考えている。

外務省

注意　1．本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2．本電の内容に関する照会，要望等は検関班（内線２１７１，２１７４）に。
3．主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

（3）大統領訪日の取材の為比よりひかえ目に見て４０－５０人（含ＴＶ関係者）が訪日するものとみている。

（なお、先方は訪日に先立ち在比日本商工会議所の会合に出席の上スピーチをしていただきたいとする要望を大統領が了承した旨述べていた。具体的日時は追つて決定される由。）（了）

01.11.20 0222 0455 04

外務省

[redacted]

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は翻訳班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] 10－034

総番号 [redacted] 主管

[redacted]月 03日 フイリピン 発 亜東２
61年 10月 03日 本省 着

外務大臣殿 国安 臨時代理大使

通報省	大臣官房	局長	担当
部	部	部	
月	月	月	
日	日	日	
時	時	時	
分	分	分	

アキノ大統領の訪日（経済問題）

第２１１２号 略 至急（ゆう先処理） [redacted]

往電第２０９７号に関し、

２日、本官はコンセプション貿易工業大臣を往訪の上、「ア」大統領の訪日の際に比側が取り上げる予定にしている日比間の経済問題等を中心にこん談したところ、右概要以下の通り（タニザキ同席）。

１．先ず「コ」大臣より、比経済の再建が急務であるとして、訪日の際には主として（１）い類を始め比の有望な輸出産品の対日市場アクセスを改善する為の関税・非関税問題及び（２）日本企業による対比投資促進策に関し話し合いたく、議論の結果を「ア」大統領のインドネシア訪問の際にとりまとめたMEMORANDUM OF UNDERSTANDING（往信第１０４９号参照）、または訪米時に行なつた共同声明（往電第２０６９号参照）の様な形にとりまとめたい旨述べた。

２．これに対し本官より、覚書にせよ共同声明にせよ訪日時に間に合う様にするには可及的速やかに比側の考えをもつと具体的にわが方に提示越すことがかん要である旨指摘しおいた。（「コ」大臣は、申し込しの点は良く分るとした上で、現在事務当局にえい意検討させているところであり、作成次第提示したい旨回答）

外務省

0410015 048 1984 04

秘

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

また、本官より、日本企業が対比投資を増加させる為にはかけ声だけでは不十分であり、投資かん境を整備する等の措置を講ずることが不可欠なので、例えば日比間で投資保護協定を締結するのも一案ではないかとしたところ、「コ」大臣は、日比間でかかる協定を締結した場合、他の先進国との間でも同様の協定を検討せざるを得なくなり、は及効果が気になるところであるが、取りあえず日本側で具体的協定案を有しているのであればそれを入手出来れば有難い旨述べた。

3. 上記2. の次第にかんがみ、前マルコス政権下において日比間の投資保護協定につき検討を開始した際に比側に提示したわが方案（昭和５８年７月５日付貿信第２５３号にて送付のあつたわが方第2次案）を全くのたたき台としてノン・コミッタル・ベースで同大臣に手交したいと考えるところ、差支え無きや否や念の為至急御回電願いたい。

4. なお、「コ」大臣は「ア」大統領の訪日に同行する予定の他、以下の日程にて訪日する予定がある由。右何等御参考まで。

（1）１０月２６日より同２８日

JAPAN CENTER FOR INTERNATIONAL EXCHANGE（所在地、港区アザ布南アザ布４ちよう目、TEL４４３－７５８０）主催のパコ根会議に出席。

（2）１１月１７日より同２２日

日・ASEAN貿易促進センター主催のASEAN投資セミナーに出席の為東京・大サカに出張。（了）

外務省

0410015 0480 1984 04

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検関班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] [redacted] 10－024

総番号 [redacted] 主管

[redacted] 月 09日 フイリピン 発 亜東２
61年 10月 09日 本 省 着

外務大臣殿 国安 臨時代理大使

[redacted]

アキノ大統領訪日（報道振り）

第２１４５号 至急（ゆう先処理） [redacted]

1. 本件については、７日マラカニアンにおいて公式発表（当館からもプレス・リリースを作成の上配布）されたところ、８日付当地各紙は何れもこれを一面に大きく取上げ報じている。記事内容は、比日両政府の発表に従い訪日日程をしようかいした事実関係が殆どであるが、マニラ・ブレテイン紙等一部紙は、オンピン大蔵大臣、コジセブシオン通産大臣、モンソド経済企画庁長官、マセダてん然資源大臣、フエルナンド中央銀行総裁等が同行することになろう旨伝えている。

2. 本件訪日の意義については、全般として、今回の訪日が両国間の相互の友情・協力の増進、就中比経済の再生に対する日本の協力を引き出す良いきつかけとなろう旨述べている中にあつて、ビジネス・デイ紙は、４面コラムらんで、現在報道関係者招待により訪日中のフランシスコ・タタド記者による「具体論が必要」と題する東京発の論説を掲載しているところ、概要次の通り。

来月のアキノ大統領の日本訪問は、大統領を人気のあるヒロインと見ている日本のマスコミ及び米政府が比新政権に対し与えようとしているものにひつ敵することを行なおうとしている日本政府により心待ちにされている。

外務省

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検関班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

現在、比は日本のＯＤＡ受取国として第５位に位置しているが、日本政府関係者は大統領の訪日により援助規模・供与条件が共に改善されるものと見ている。然し、日本の官僚機構が動くには具体的な要求がアキノ政権側から提出される必要がある。

アキノ政権にとつてもう１つの課題は日本の対比民間投資を引き寄せることにある。日本の対ＡＳＥＡＮ投資は全般に低調となつており、投資促進はしん重なし勢をとつている。比の場合は特に政治的不安定という要因がある。日本では政府が対外投資を決定する訳ではなく、アキノ政権の比の財界が日本の企業と密接な関係をつくることが必要である。然しながら同時に日本企業は政府が強力にコミットしない国に対して積極的に進出するということはない。その意味で、アキノ大統領は、政治家、特に大統領のリーダーシップの欠如、政権の不安定を懸念している人々に対し強い印象を与える必要がある。

日本人は自分自身を感しよう的と見ているが、その感しようを表に出すことを避ける傾向にある。９月の訪米で効果的であつた感しよう的なスピーチは当地では機能しない。最善の対比援助策を考える為にも、アキノ政権の経済計画の詳細を聞きたい、というのが大方の意見である。（了）

09.18.19 048 2534 07

外務省

No 1

通報	0028 MA-3	6年10月7日付
儀典官室 [redacted] 宛		在フィリピン大 発
件名	※ アキノ大統領の訪日(比側発表)	

アキノ大統領の訪日に関する大統領府プレス・リリース（7日付）を送付する。

No 2

MALACAÑANG PRESS CENTER
PRESS RELEASE NO. 2
October 7, 1986

PRESIDENT AQUINO TO VISIT JAPAN NOV. 10-13

President Corazon C. Aquino will make a state visit to Japan from November 10 to 13, 1986, Press Secretary Teodoro C. Benigno announced in a press briefing today (Oct. 7) at the Kalayaan Hall, Malacañang.

"The government and people of Japan sincerely welcome the visit of the President which will further strengthen the friendly relations so happily existing between Japan and the Republic of the Philippines," the Embassy of Japan said in a statement read by Secretary Benigno.

Secretary Benigno, pointing out that the President's schedule is still provisional, said that she will arrive by special airplane at the Tokyo International Airport in Haneda in the afternoon of Monday, November 10.

After a welcome ceremony at the Akasaka Palace where she will stay, the President will pay a state call at the Imperial Palace, residence of the Japanese emperor. The Akasaka Palace is the former residence of the Japanese Imperial family and is now a guesthouse.

On Tuesday, November 11, the President will call on Prime Minister Yasuhiro Nakasone.

She will then attend a luncheon tendered by the Japanese Prime Minister and later receive the Governor of Tokyo, Shunichi Suzuki.

(more)

Now

On Tuesday evening, a state banquet in honor of President Aquino will be given by the Japanese Emperor at the Imperial Palace.

On November 12, Wednesday, she will attend a bfeakfast reception given by the heads of missions (Circle Diplomatique) and a luncheon given by the business groups. She will give a reception Wednesday night at the Akasaka Palace.

On Thursday, November 13, the Emperor of Japan will pay a farewell call on President Aquino at the Akasaka Palace.

She will attend a luncheon given by the Japanese National Press Club before departing from the Tokyo International Airport for Manila.

Secretary Benigno said that the President's official delegation to Japan will be made up mostly of her economic and finance ministers.

He said that Japan, and the United States, are the leading trade partners of the Philippines.

###

j. ramirez/lch

(3)

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検閲班（内線２１７１．２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写 [redacted] 10-024

総番号 [redacted] 主管

[redacted] 月 09日 フイリピン 発 亜東２

61年 10月 09日 本省 着

外務大臣殿 国安 臨時代理大使

[redacted]

アキノ大統領の訪日（報道）

第２１５５号 至急（ゆう先処理） [redacted]

往電第２１４５号に関し、

9日付ビジネス・デイ紙は報道関係者招待で訪日中の同紙タタド記者による「日本人との対話（TALKING TO THE JAPANESE）」と題する東京発の記事を掲載しているところ、右要旨次の通り。（同記事商用ＦＡＸにて送付）

在京比大は、アキノ大統領の訪日中に先の訪米時の例にならい国会での大統領演説を行ない得るよう働きかけているが、自民党の有力議員はかかるアイデアに余り前向きの姿勢を示していない。日本は現実的な社会であり、大統領が国会で演説を行なったからといって、右演説の作用する余地は殆どなく、大統領訪日を現実的なやり方で受け止め様としているやに見える。ズナダ衆院予算委員長は、日比両国は成じゆくした関係にあり、中ソ根総理との会談では大統領は日比協力の問題を具体的かつ詳細に取り上げるべきで、右が訪日の成否を強めるものと思う。中ソ根総理は比の経済再建計画において日本が如何なる分野に如何なる方法で協力出来るか知りたがっている、われわれは率直な意見交換をもつ必要があり、その為には大統領が比の個々の経済状況につき説明出来るテクノクラートを随行するよう強く望む、旨述べている。大統領は

外務省

[redacted]

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は検関班（内線２１７１，２１７４）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線３１６９）に連絡ありたい。

電信写

訪米の時の様にスピーチの修辞を気にするよりも内容のあるブリーフィング・ペーパーを持参すべきだ。（了）

1109933 048 2386 04

外務省

南東アジア第二課長

第1234号
昭和61年10月9日

外務大臣 殿

在フィリピン
岡安 臨時代理大使

件名
アキノ不統領の訪日（報道）

引用公電等
日付・番号 在電第2145号 （アジ二）

留頭在電にかかわる関係記事を別添送付申し上げる

（了）

10.3

本信送付先：
本信写送付先：
省内回覧希望先：

在外公館
日本国内
対域在館 DP：二

GA-3-1 在外公館

Business Day
10-8-86 P-4

Specifics, please

By FRANCISCO S. TATAD

TOKYO — President Corazon Aquino's state visit here next month is eagerly awaited by a media public that regards her as a popular heroine and a government that seems determined to match what Washington is doing for the new government.

"We are looking forward to this visit and will not allow her to go home empty-handed," officials at the Gaimusho, the foreign ministry, are saying. "She will have many presents in Japanese yen," says a well-known academic expert in Asian affairs.

Increased assistance could take the form of yen loans, grant aid, and technical assistance. On a net disbursement basis, the Philippines now ranks as the fifth major recipient of Japan's Overseas Development Assistance (ODA), after China, Malaysia, Thailand and Indonesia. This amounted to the equivalent of $160.07 million in 1984.

Officials here are confident the present level of assistance, as well as its terms, could be improved. But specific requests will have to be made by the Aquino government, otherwise the Japanese bureaucracy will not move. They indicate readiness to start working on a 14th yen loan, possibly on softer terms than those of the 12th and 13th yen loans. But, so far no request has been received. Given the time needed to work on it, they do not think such a loan could be rushed in time for the visit.

They are more confident of being able to convert some projects under the present loan agreement into commodities. As a matter of policy, Japan does not extend commodity loans to countries with foreign reserves surplus. This presents a problem for the Philippines after the Central Bank had announced a reserves surplus. Some officials, here, however indicate the Japanese government may be prepared to gloss over this detail to help the new government. And provided both sides work on this now, agreement could be finalized before the visit.

Because of the appreciation of the yen and its unavoidable effects on debt-servicing, Mrs. Aquino is expected to seek a lowering of the 3.5% interest rate being charged by Japan. There is sympathy for this here. But while Gaimusho officials are sympathetic, they point out that most of the money being lent out is borrowed by the Japanese government in the market at not much lower interest rates. Moreover, lowering the rate for one country could create a precedent for others.

The real challenge to the Aquino government is how to attract an increase in Japanese private investments in the Philippines, after a consistent decline during the last six years. This decline is not limited to the Philippines, but rather seems part of an overall decline of Japanese investments in the ASEAN region. In fact, the low-key visit here of Malaysian Prime Minister Mahathir last week and of Singapore Prime Minister Lee Kuan Yew next week shows how strongly the other ASEAN countries are trying to convince the Japanese to redirect the flow of their investments.

Japanese investors remain very cautious for economic and political reasons. There has been a general slowdown of the ASEAN economy, compounded by new political uncertainties in the case of the Philippines. As investments remain a private initiative, which cannot be dictated by government, the Aquino government and the Philippine private sector will have to establish closer contacts with Japanese companies to identify and work on real and imagined bottlenecks. Toyota's announced decision to resume car manufacturing operations in the Philippines is a welcome development that could provide the necessary leadership role for others. But this has to be properly exploited by the Manila government, which has yet to facilitate the reentry bid.

The strong yen situation, brought about by Japan's large current accounts surplus, has affected the competitiveness of Japanese products, and is forcing many small firms to close. This results in certain comparative advantages for the Philippines in such products as textiles which can no longer be produced as profitably here or in Taiwan, Korea, and Singapore.

But although Japanese officials say the government cannot and does not decide for Japanese investors, the system works in such a way that Japanese businessmen will not go into any country in full force unless the government has made a strong and solid commitment there. This means Mrs. Aquino will have to make a sufficiently strong impact on the politicians, especially those who find her leadership weak and her government unstable.

Much of this depends on what she does at home, and the message she brings here. Although the Japanese consider themselves sentimental, they generally avoid a public display of their sentiment. They do not think a highly emotional speech about the recent or remote past will work here as well as it worked in Washington in September. "We would prefer to hear the details of her government's economic program to see how we can best help," says one official. It is a view shared by so many others.

Here and Now

17